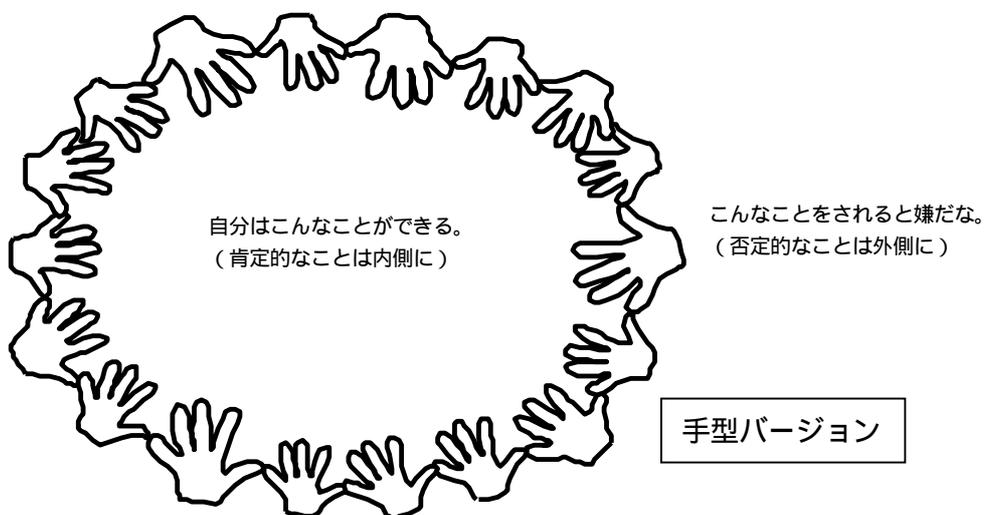
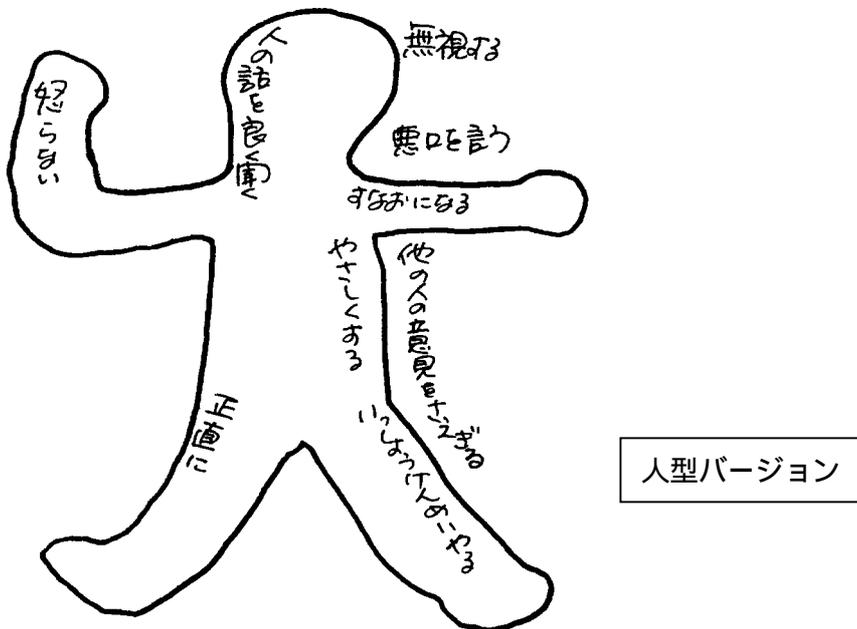


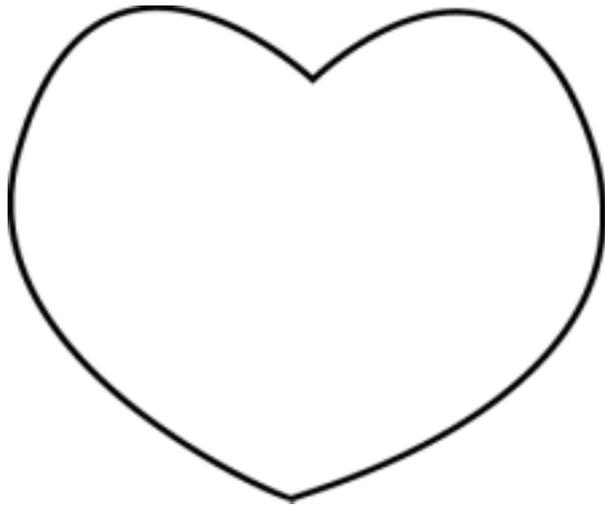
ビーイング（誰が書いたかわからない方法）

「ビーイング」はPAプログラムの3つの柱（アドベンチャーの利用、体験学習、フルバリュー コントラクト）の中で、最も重要な、フルバリューコントラクトを実践するための手法です。

ねらい

フルバリュー コントラクトは「お互いを最大限に尊重しあう」という約束です。とても簡単な約束です。ただ、それは具体的にどういうことかが分かりにくくて、言葉で約束しても実際には実行できないのが現実です。そこでそれをなるべく具体的なものにするための方法が「ビーイング」です。この活動の狙いは、体験の中で、気づきの機会が増えるよう、みんなの心のバリヤーを下げてもらうというものです。





ハート型バージョン

方法

「ビーイング」はまず何か象徴的な線画を皆で大きな模造紙などに描いてみるころから始まります。絵柄としては、元気そうな人型、みんなの手の型をつなげたもの、また気球や船、ハート、大きな木の形など何でも結構です。

「ビーイング」はフルバリューコントラクトの実践の方法です。「お互いを最大限に尊重する」という、この約束の目指すものは「お互いに安心していられる環境」です。心理学者のアブラハム・マズローも欲求段階説の中で「安全」への欲求は「生理的な欲求」の次に人が求める大切な欲求と位置づけています。

そこで「自分が安心していられるクラスにするために自分はこんなことができる」ということを話し合いながらみんなで書き出します。でも中には、人前で自分の考えを発表できない人もいます。

これから紹介する方法は、そんな引っ込み思案の人たちも安心して自分の思いを伝えられる方法です。

- 準備物：
- 模造紙 20人につき3枚程度。
 - 大型の封筒、クラスが20人以上の場合は2つ用意する。
 - プロッキー 各色を混ぜて2人に1本ぐらい。
 - セロテープ

これからやることを説明する。

「みんなで居心地の良いクラスをつくるために、みんなに協力して欲しい。これからやることは自分たちのためのルールづくりです。あとで書き直しもできます。1回だけで終わりではありません。これを使ってみんなが安心していられる楽しいクラスを作りたいので、ぜひ本当の気持ちを書いてもらいたい。」

クラスみんなに別紙の記入用紙を配る。机の配置は自分が書いていることを他の人に見られないような通常の配置でよい。(机で島をつくらない)

記入用紙に書いてあることを読み上げる。そこに自分の思いを書いてもらう。自分の名前は書かなくて良い。

「誰が書いたかはわからないように回収しますので、今の気持ちを素直に書いてください。居心地の良いクラスはみんなが努力しなければできません、小さなことでも良

いので自分ができることを書いてください。」(15分~20分ぐらい、たっぷり時間をかける。)

用意した封筒を回してこれを回収する。

20人以上のクラスではグループを2つに分けそれぞれ机で島をつくる。次に、模造紙2~3枚をセロテープで張り合わせた紙を用意し、ビーイングの型(p.2方法のを参照)をみんなで描く。

封筒で回収した用紙の左側に記載された内容を教師が読み上げる。生徒に協力してもらい、絵柄の内側に読み上げた通りに書き込む。左側をすべて読み上げた後、同様に用紙の右側に書かれたこと(否定的なこと)を、型の外側に書き込む。グループが2つのときは、グループが交互に自分たちの描いた型に書き出す。誰の言葉が判らないように進める。(10~15分)

クラスで2枚になったら2枚一緒に黒板に貼って全員にそれを黙読してもらおう。

意味が良くわからない言葉は、みんなでどういう意味か話し合う。誰の言葉かはわからないまま進める。

できれば、このときクラス全員が参加する話し合いに発展させたい。そして、できるかぎり書いてあることを削除しないで、表現を書き加えることで修正したい。みんなが承認できるようになるまで加筆、修正する。(10分~20分)

みんなが承認したら、一人ひとりに承認のサインを模造紙の上にしてもらう。サインをした以上責任はある。ただし「ビーイング」はこれからみんなで加筆、修正しながら発展していくので、みんなの目標と考えてもらいたいということも付け加える。

またあくまでも、「ビーイング」は自分たちが作った自分たちのためのルールであることを何度も強調し、これを実現するには一人ひとりが少しでも良いから努力し続けなくてはならないことを強く訴える。少しでも油断をすると居心地の良さはどこかに消えていってしまう。

「ビーイング」は何か機会がある度に振りかえりの材料に使っていく。

例えば、グループ学習などの振りかえりのときにこれを広げて書いてあることが実践できたかどうか、この次につながるような学びを言葉にできないかを話し合います。この時出てきた言葉を「ビーイング」に書き足す。

また喧嘩がおきてしまった時などに、誰が悪かったかを追及するのではなく、それがどうして起きてしまったのか、他の人はそれを防ぐために何もできなかったのかを話し合う。「ビーイング」に書かれていることで、出来ることがなかったかなどを話し合う。そして「ビーイング」に何か書き足す言葉を探します。こうして話し合いを続けながら、「ビーイング」を修正していく。

更に、日常の授業や活動の振り返りなどで気がつく度に、「ビーイング」を修正していく。

「ビーイング」の大切なところは、生徒とともに「ビーイング」も成長していくということです。なるべく多くの機会を利用して、「ビーイング」が成長するように意識して利用すると自然に生徒の中に「人を尊重する」気持ちが染み付いていきます。

これを繰り返して行くと、こちらから働きかけなくても、あるときからは生徒の方で、主体的に動いていくようになります。そのころには「ビーイング」は生徒たちの手でどんどん成長し続けていきます。

「ピーイング」を実施するうえで注意すべき点

- 生徒との信頼関係づくりに留意する。
- 指示的になりすぎないように。あまり強い口調は避ける。
- 生徒を一人の人間として尊重する態度が大切。(これは生徒を甘やかすことにはなりません。「ピーイング」でつくる自分たちのルールを守ろうと努力することが、生徒の新しい責任になります。)
- 人から何かをしてもらうことに慣れている今の子どもたちに、自分が何かをしなければ居心地の良いクラスは作れないことを是非伝えてください。
- 生徒が自分の本音を出してくれるかがポイントとなります。
- 最初に思ったような言葉が出てこなくてもガッカリしないでください。続ければきっと出てきます。
- 書けない、または書かない生徒がいてもそのまま回収します。誰が書かなかったか、もわからないようにします。書かないのも、生徒の権利です。まず、生徒の権利を尊重するところから始まります。

(参考) 今まではこんな言葉が出てきました。

これらは「ピーイング」をイメージするための、あくまでも参考です。このような言葉が生徒から出てくるのを待ちます。子どもたちから出てきた言葉であることに意味があります。短く、具体的であることが望ましい。

[肯定的なこと]

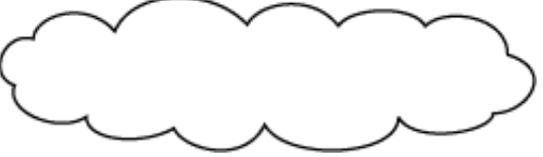
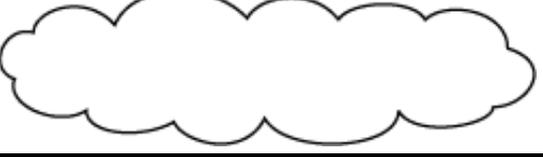
あきらめない	心を開く
時には人に頼る	頭から否定をしない
人の話を聞く	受容
進んで人のためになることをする	ほめる
最後までがんばる	やってみる
配慮	ちいさな声や動作を見逃さない
優しく	大きなこころ
共感	サポート
声をかける	思いやり
笑顔	正直に
勇気	公平

[否定的なこと]

無視する	怒鳴る
すぐに怒る	暴力
ものを隠す	バカにする
自分勝手	きれる
否定する	悪口を言う
差別	偏見
先入観	

自分たちが安心していられるクラスをつくるために、	
自分はこんなことができる、したい。 <small>(こんなことをすればきっと相手は自分が大事にされていると感じるのではないだろうか。)</small>	こんなことをされると嫌だな。 <small>(こんなことをされると自分はバカにされていると感じる。)</small>
	
	
	
	

©Project Adventure Japan

自分たちが安心していられるクラスをつくるために、	
自分はこんなことができる、したい。 <small>(こんなことをすればきっと相手は自分が大事にされていると感じるのではないだろうか。)</small>	こんなことをされると嫌だな。 <small>(こんなことをされると自分はバカにされていると感じる。)</small>
	
	
	
	

©Project Adventure Japan